

(12) 特許協力条約に基づいて公開された国際出願

(19) 世界知的所有権機関
国際事務局

(43) 国際公開日
2016 年 6 月 16 日(16.06.2016)



(10) 国際公開番号

WO 2016/093089 A1

- (51) 国際特許分類:
A61K 8/36 (2006.01) A61K 8/73 (2006.01)
A61K 8/41 (2006.01) A61Q 19/10 (2006.01)
A61K 8/42 (2006.01)
- (21) 国際出願番号: PCT/JP2015/083493
- (22) 国際出願日: 2015 年 11 月 27 日(27.11.2015)
- (25) 国際出願の言語: 日本語
- (26) 国際公開の言語: 日本語
- (30) 優先権データ:
特願 2014-252264 2014 年 12 月 12 日(12.12.2014) JP
- (71) 出願人: ライオン株式会社(LION CORPORATION)
[JP/JP]; 〒1308644 東京都墨田区本所 1 丁目 3 番
7 号 Tokyo (JP).
- (72) 発明者: 井上 智恵子(INOUE, Chieko); 〒1308644
東京都墨田区本所 1 丁目 3 番 7 号 ライオン株
式会社内 Tokyo (JP).
- (74) 代理人: 廣田 浩一, 外(HIROTA, Koichi et al.); 〒
1510053 東京都渋谷区代々木 1-2 4-1 O
T S ビル 4 階 山の手合同国際特許事務所
Tokyo (JP).
- (81) 指定国 (表示のない限り、全ての種類の国内保
護が可能): AE, AG, AL, AM, AO, AT, AU, AZ, BA,
BB, BG, BH, BN, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CL, CN,
CO, CR, CU, CZ, DE, DK, DM, DO, DZ, EC, EE, EG, ES,
FI, GB, GD, GE, GH, GM, GT, HN, HR, HU, ID, IL, IN,
IR, IS, JP, KE, KG, KN, KP, KR, KZ, LA, LC, LK, LR,
LS, LU, LY, MA, MD, ME, MG, MK, MN, MW, MX,
MY, MZ, NA, NG, NI, NO, NZ, OM, PA, PE, PG, PH,
PL, PT, QA, RO, RS, RU, RW, SA, SC, SD, SE, SG, SK,
SL, SM, ST, SV, SY, TH, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA,
UG, US, UZ, VC, VN, ZA, ZM, ZW.
- (84) 指定国 (表示のない限り、全ての種類の広域保
護が可能): ARIPO (BW, GH, GM, KE, LR, LS, MW,
MZ, NA, RW, SD, SL, ST, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), ユー
ラシア (AM, AZ, BY, KG, KZ, RU, TJ, TM), ヨー
ロッパ (AL, AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE,
ES, FI, FR, GB, GR, HR, HU, IE, IS, IT, LT, LU, LV, MC,
MK, MT, NL, NO, PL, PT, RO, RS, SE, SI, SK, SM, TR),
OAPI (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, KM,
ML, MR, NE, SN, TD, TG).
- 添付公開書類:
— 国際調査報告 (条約第 21 条(3))

(54) Title: SKIN CLEANSER COMPOSITION

(54) 発明の名称: 皮膚洗浄剤組成物

(57) Abstract: [Problem] To provide a skin cleanser composition that has good cleaning power, a good feeling of foam elasticity, and good foam durability, has excellent deodorization capacity and retention of deodorization capacity, and affords an excellent feeling of moistness in the skin after cleaning. [Solution] Provided is a skin cleanser composition that contains (A) a fatty acid salt, (B) 0.2-10 mass% of at least one selected from highly branched cyclic dextrins and hydroxyalkylated cyclodextrins, and (C) 0.3-10 mass% of at least one selected from ampholytic surfactants and alkylamine oxides, wherein the mass ratio (B/C) between the content (mass%) of (B) at least one selected from highly branched cyclic dextrins and hydroxyalkylated cyclodextrins, and the content (mass%) of (C) at least one selected from ampholytic surfactants and alkylamine oxides is 0.1-30.

(57) 要約: 【課題】洗浄力、泡の弾力感、及び泡の持続性が良好であり、消臭力、消臭力の持続性、及び洗浄後の肌のしっとり感に優れる皮膚洗浄剤組成物の提供。【解決手段】(A) 脂肪酸塩と、(B) 高度分岐環状デキストリン及びヒドロキシアルキル化シクロデキストリンから選択される少なくとも 1 種 0.2 質量%~10 質量%と、(C) 両性界面活性剤及びアルキルアミンオキサイドから選択される少なくとも 1 種 0.3 質量%~10 質量%と、を含有し、前記 (B) 高度分岐環状デキストリン及びヒドロキシアルキル化シクロデキストリンから選択される少なくとも 1 種の含有量 (質量%) と、前記 (C) 両性界面活性剤及びアルキルアミンオキサイドから選択される少なくとも 1 種の含有量 (質量%) との質量比 (B/C) が 0.1~30 である皮膚洗浄剤組成物である。

WO 2016/093089 A1

明 細 書

発明の名称：皮膚洗浄剤組成物

技術分野

[0001] 本発明は、皮膚洗浄剤組成物に関する。

背景技術

[0002] 従来、皮膚洗浄剤組成物は、洗浄後のさっぱりとした感触及び弾力のある泡質が好まれ、洗浄基材として高級脂肪酸塩と、両性界面活性剤又はアルキルアミノオキサイドとを含有し、泡質の改善、並びに脂汚れ及びにおい汚れに対する洗浄力に優れ、手にも香りが残りにくい手指用洗浄剤組成物が提案されている（例えば、特許文献1参照）。

[0003] しかし、この提案は、洗浄力を向上させても、魚や肉等によるにおい汚れに対する消臭力は、香料によるマスキングに頼っており、十分な消臭力及び消臭力の持続性は得られず、さらに、泡の弾力感、泡の持続性、及び洗浄後の肌のしっとり感が不十分であるという問題がある。

[0004] したがって、洗浄力、泡の弾力感、及び泡の持続性が良好であり、消臭力、消臭力の持続性、及び洗浄後の肌のしっとり感に優れる皮膚洗浄剤組成物の提供が望まれている。

先行技術文献

特許文献

[0005] 特許文献1：特開2006-182698号公報

発明の概要

発明が解決しようとする課題

[0006] 本発明は、従来における前記諸問題を解決し、以下の目的を達成することを課題とする。即ち、本発明は、洗浄力、泡の弾力感、及び泡の持続性が良好であり、消臭力、消臭力の持続性、及び洗浄後の肌のしっとり感に優れる皮膚洗浄剤組成物を提供することを目的とする。

課題を解決するための手段

[0007] 前記課題を解決するため本発明者が鋭意検討を重ねた結果、(A) 脂肪酸塩と、(B) 高度分岐環状デキストリン及びヒドロキシアルキル化シクロデキストリンから選択される少なくとも1種0.2質量%～10質量%と、(C) 両性界面活性剤及びアルキルアミノオキサイドから選択される少なくとも1種0.3質量%～10質量%と、を含有し、(B) 成分の含有量(質量%)と、(C) 成分の含有量(質量%)との質量比(B/C)が0.1～30である皮膚洗浄剤組成物が、前記(B) 成分を含有することにより、泡の弾力感、及び泡の持続性を向上させることができ、また、メカニズムは明らかではないが、前記(A) 成分及び前記(C) 成分の洗浄力のみでは洗い落とすことができなかったにおい汚れに対して、前記(B) 成分の包接作用により、におい汚れの原因となる物質を包接することで、消臭力、及び消臭力の持続性を発揮することができると考えられ、さらに、前記質量比(B/C)が所定の範囲内であることで、消臭力、泡の弾力感、泡の持続性及び洗浄後の肌のしっとり感を得ることができることを知見した。

[0008] 本発明は、本発明者による前記知見に基づくものであり、前記課題を解決するための手段としては、以下の通りである。

<1> (A) 脂肪酸塩と、

(B) 高度分岐環状デキストリン及びヒドロキシアルキル化シクロデキストリンから選択される少なくとも1種0.2質量%～10質量%と、

(C) 両性界面活性剤及びアルキルアミノオキサイドから選択される少なくとも1種0.3質量%～10質量%と、を含有し、

前記(B) 高度分岐環状デキストリン及びヒドロキシアルキル化シクロデキストリンから選択される少なくとも1種の含有量(質量%)と、前記(C) 両性界面活性剤及びアルキルアミノオキサイドから選択される少なくとも1種の含有量(質量%)との質量比(B/C)が0.1～30であることを特徴とする皮膚洗浄剤組成物である。

<2> ヒドロキシアルキル化シクロデキストリンがヒドロキシプロピルシクロデキストリンである前記<1>に記載の皮膚洗浄剤組成物である。

<3> (B) 高度分岐環状デキストリン及びヒドロキシアルキル化シクロデキストリンから選択される少なくとも1種の含有量が0.5質量%~10質量%であり、

(C) 両性界面活性剤及びアルキルアミノオキサイドから選択される少なくとも1種の含有量が0.5質量%~10質量%であり、

前記(B)成分の含有量(質量%)と、前記(C)成分の含有量(質量%)との質量比(B/C)が0.2~30である前記<1>から<2>のいずれかに記載の皮膚洗浄剤組成物である。

<4> (C)成分がアルキルアミノオキサイドである前記<1>から<3>のいずれかに記載の皮膚洗浄剤組成物である。

<5> 更に、(D)殺菌剤を含有する前記<1>から<4>のいずれかに記載の皮膚洗浄剤組成物である。

発明の効果

[0009] 本発明によれば、従来における前記諸問題を解決し、前記目的を達成することができ、洗浄力、泡の弾力感、及び泡の持続性が良好であり、消臭力、消臭力の持続性、及び洗浄後の肌のしっとり感に優れる皮膚洗浄剤組成物を提供することができる。

発明を実施するための形態

[0010] (皮膚洗浄剤組成物)

本発明の皮膚洗浄剤組成物は、(A)脂肪酸塩、(B)高度分岐環状デキストリン及びヒドロキシアルキル化シクロデキストリンから選択される少なくとも1種、及び(C)両性界面活性剤及びアルキルアミノオキサイドから選択される少なくとも1種を含有してなり、(D)殺菌剤を含有することが好ましく、更に必要に応じてその他の成分を含有してなる。

[0011] <(A)脂肪酸塩>

前記(A)成分の脂肪酸塩は、洗浄力、泡の弾力感、泡の持続性、及び消臭力の持続性を向上させるために含有されている。

[0012] 前記(A)成分の脂肪酸塩は、下記一般式(A1)で表される。

R^1COOM . . . 一般式 (A1)

ただし、前記一般式 (A1) 中、 R^1 としては、例えば、炭素数7～21の直鎖又は分岐鎖の一価炭化水素基を示し、前記一価炭化水素基は、飽和及び不飽和のいずれかであり、かつ水素原子の一部が水酸基で置換されていてもよい。 M は、アルカリ金属、アルカノールアミン、塩基性アミノ酸又はアンモニウムを示す。

[0013] 前記一般式 (A1) 中、 R^1 は、炭素数7～21の直鎖又は分岐鎖の一価炭化水素基を示し、これらの中でも、洗浄力、泡の弾力感、及び泡の持続性の点から、炭素数11～17が好ましく、炭素数11～15がより好ましく、炭素数11～13が特に好ましい。前記炭素数が、7未満又は21を超えると、洗浄力、泡の弾力感、及び泡の持続性が不十分となることがある。前記一価炭化水素基としては、飽和又は不飽和のいずれでもよく、かつ水素原子の一部が水酸基で置換されていてもよい。これらの中でも、泡の弾力感、及び泡の持続性の点から、アルキル基、アルケニル基が好ましい。

前記一般式 (A1) 中、 M は、例えば、アルカリ金属、アルカノールアミン、塩基性アミノ酸、アンモニウムなどが挙げられる。これらの中でも、洗浄力の点から、アルカリ金属が好ましい。

前記アルカリ金属としては、例えば、ナトリウム、カリウムなどが挙げられる。これらの中でも、洗浄力の点から、カリウムが好ましい。

前記アルカノールアミンとしては、例えば、モノエタノールアミン、ジエタノールアミン、トリエタノールアミン、イソプロパノールアミンなどが挙げられる。

前記塩基性アミノ酸としては、例えば、アルギニンなどが挙げられる。

前記アンモニウムとしては、置換されていてもよく、非置換でもよい。

[0014] 前記 (A) 成分の脂肪酸塩としては、特に制限はなく、目的に応じて適宜選択することができ、例えば、カプリル酸塩 (R^1 の炭素数：7)、カプリン酸塩 (R^1 の炭素数：9)、ラウリン酸塩 (R^1 の炭素数：11)、ミリスチン酸塩 (R^1 の炭素数：13)、パルミチン酸塩 (R^1 の炭素数：15)、ス

テアリン酸塩（ R^1 の炭素数：17）、オレイン酸塩（ R^1 の炭素数：17）、リノール酸塩（ R^1 の炭素数：17）、イソステアリン酸塩（ R^1 の炭素数：17）、ベヘニン酸塩（ R^1 の炭素数：21）などが挙げられる。これらは、1種単独で使用してもよく、2種以上を併用してもよい。これらの中でも、洗浄力、泡の弾力感、及び泡の持続性の点から、ラウリン酸塩、ミリスチン酸塩、パルミチン酸塩、ステアリン酸塩が好ましい。

[0015] 前記（A）成分の脂肪酸塩は、2種以上を併用することが好ましい。前記2種以上を併用する場合には、洗浄力、消臭力の持続性、泡の弾力感、及び泡の持続性の点から、ラウリン酸塩とミリスチン酸塩との併用がより好ましい。

また、ヤシ油脂肪酸塩（ R^1 の炭素数：7～17）も好適に使用することができる。

[0016] 前記ラウリン酸塩の含有量としては、消臭力の持続性、泡の弾力感、及び泡の持続性の点から、皮膚洗浄剤組成物全量に対して、3質量%～15質量%が好ましく、5質量%～10質量%がより好ましい。前記含有量が、3質量%未満であると、消臭力の持続性、泡の弾力感、及び泡の持続性が不十分となることがあり、15質量%を超えると、泡の弾力感、及び泡の持続性が不十分となることがある。

前記ミリスチン酸塩の含有量としては、泡の弾力感、及び泡の持続性の点から、皮膚洗浄剤組成物全量に対して、0.5質量%～10質量%が好ましく、1質量%～5質量%がより好ましい。前記含有量が、0.5質量%未満又は10質量%を超えると、泡の弾力感、及び泡の持続性が不十分となることがある。

前記ラウリン酸塩の含有量（質量%）と、前記ミリスチン酸塩の含有量（質量%）との質量比（ラウリン酸塩／ミリスチン酸塩）としては、泡の弾力感、及び泡の持続性の点から、1～20が好ましく、1～10がより好ましい。前記質量比（ラウリン酸塩／ミリスチン酸塩）が、1未満又は20を超えると、泡の弾力感、及び泡の持続性が不十分となることがある。

[0017] 前記（Ａ）成分の脂肪酸塩は、脂肪酸塩として配合することも可能であるが、脂肪酸と、アルカリ金属、アルカノールアミン、塩基性アミノ酸、及びアンモニウムとの少なくともいずれかを別々に、配合槽に添加して中和反応させて脂肪酸塩とすることもできる。

[0018] 前記（Ａ）成分の脂肪酸塩の含有量としては、洗浄力、泡の弾力感、泡の持続性、及び消臭力の持続性の点から、皮膚洗浄剤組成物全量に対して、４質量％～２０質量％が好ましく、５質量％～１５質量％がより好ましい。前記含有量が、４質量％未満であると、洗浄力、泡の弾力感、泡の持続性、及び消臭力の持続性が不十分となることがあり、２０質量％を超えると、泡の弾力感、及び泡の持続性が不十分となることがある。

[0019] <（Ｂ）高度分岐環状デキストリン及びヒドロキシアシル化シクロデキストリン>

前記（Ｂ）成分の高度分岐環状デキストリン及びヒドロキシアシル化シクロデキストリンから選択される少なくとも１種は、消臭力、消臭力の持続性、泡の弾力感、泡の持続性、及び洗浄後の肌のしっとり感を向上させるために含有されている。

前記（Ｂ）成分としては、例えば、高度分岐環状デキストリン、ヒドロキシアシル化シクロデキストリンなどが挙げられる。これらは、１種単独で使用してもよいし、２種以上を併用してもよい。これらの中でも、消臭力、消臭力の持続性、泡の弾力感、泡の持続性、及び洗浄後の肌のしっとり感の点から、高度分岐環状デキストリンが好ましい。

[0020] <<高度分岐環状デキストリン>>

前記高度分岐環状デキストリンは、「クラスターデキストリン」（グリコ栄養食品株式会社の登録商標）とも呼ばれる。

[0021] 前記高度分岐環状デキストリンとは、内分岐環状構造部分と外分岐構造部分とを有する、重量平均重合度が５０～１０，０００の範囲にあるグルカンという。

ここで、前記内分岐環状構造部分とは、 α -１，４-グルコシド結合と α

— 1, 6 —グルコシド結合とで形成される環状構造部分をいう。

前記外分岐構造部分とは、前記内分岐環状構造部分に結合した非環状構造部分であるグルカン进行をいう。

[0022] 前記高度分岐環状デキストリンとしては、重量平均分子量が30,000～1,000,000であることが好ましく、分子内に環状構造を1つ有し、更にその環状構造に多数のグルカン鎖が結合した重量平均重合度2,500程度のデキストリンを主に含むことがより好ましい。前記重量平均分子量は、ゲルろ過クロマトグラフィー—多角度光散乱（GPC—MALLS）分析を用いて下記条件で測定することができる。

[測定条件]

測定装置：Gel Permeation Chromatography System（株式会社島津製作所製）

測定試料溶液：前記（B）成分の純分濃度が約1,000ppm（移動相で希釈）

カラム：極性有機溶媒用カラム（TSK—GEL α カラム、東ソー株式会社製）

移動相：0.5mol/Lの過塩素酸ナトリウム溶液

測定波長：約633nm

検出器：多角度光散乱検出器（MALLS）

標準品：分子量既知のポリエチレングリコール

[0023] 前記高度分岐環状デキストリンとしては、例えば、デンプンを原料として、ブランチングエンザイムという酵素を作用させて製造される。原料であるデンプンは、グルコースが α —1, 4—グルコシド結合によって直鎖状に結合したアミロースと、 α —1, 6—グルコシド結合によって複雑に分岐した構造を持つアミロペクチンからなり、前記アミロペクチンは、クラスター構造が多数連結された巨大分子である。使用酵素であるブランチングエンザイムは、動植物、微生物に広く分布するグルカン鎖転移酵素であり、アミロペクチンのクラスター構造の継ぎ目部分に作用し、これを環状化する反応を触

媒する。

より詳細には、前記高度分岐環状デキストリンとしては、例えば、特開平 8-134104 号公報に記載の内分岐環状構造部分と外分岐構造部分とを有する、重量平均重合度が 50~10,000 の範囲にあるグルカンなどが挙げられる。本明細書において、前記高度分岐環状デキストリンは、特開平 8-134104 号公報の記載を参酌して理解され得る。

[0024] 前記高度分岐環状デキストリンとしては、上記の通り特定の構造を有し、かつ重量平均重合度（分子量）が大きいものであり、 α -シクロデキストリン（グルコースの数が 6 個）、 β -シクロデキストリン（グルコースの数が 7 個）、 γ -シクロデキストリン（グルコースの数が 8 個）などのグルコースが 6 個~8 個結合した一般的なシクロデキストリンとは異なる。

また、ヒドロキシアシル化シクロデキストリンは、シクロデキストリンの水酸基の一部にヒドロキシアシル基を導入したものであり、前記高度分岐環状デキストリンとは異なる。

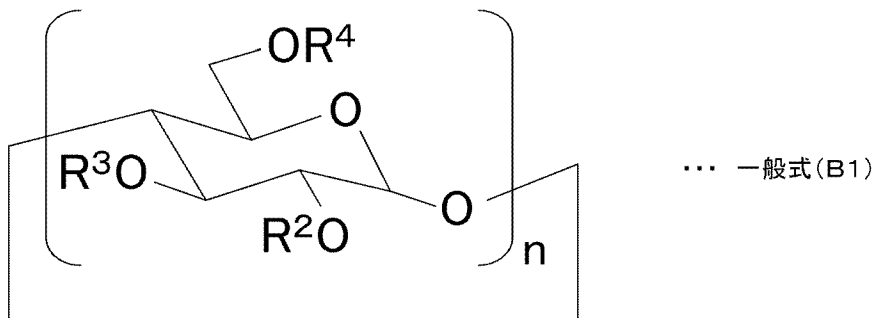
[0025] 前記高度分岐環状デキストリンとしては、市販品を用いることができ、前記市販品としては、例えば、商品名：クラスターデキストリン（グリコ栄養食品株式会社の登録商標、グリコ栄養食品株式会社製）、商品名：クラスターデキストリン（グリコ栄養食品株式会社の登録商標、日本食品化工株式会社製）などが挙げられる。

[0026] <<ヒドロキシアシル化シクロデキストリン>>

前記ヒドロキシアシル化シクロデキストリンとしては、グルコースが α -1,4 グルコシド結合で環状に連なった化合物であり、かつシクロデキストリンの水酸基の一部にヒドロキシアシル基が導入されたものであり、例えば、下記一般式（B1）で表される化合物などが挙げられる。なお、前記ヒドロキシアシル化シクロデキストリンは、 β -シクロデキストリンに比べて洗浄剤に対する溶解性が著しく高い。

[0027]

[化1]



前記一般式（B1）中、 R^2 、 R^3 、及び R^4 は、それぞれ独立に、水素原子、メチル基、エチル基、プロピル基、又はブチル基を示し、 n は6～8の整数を示す。ただし、前記 R^2 、前記 R^3 、及び前記 R^4 が同時に水素原子となることはない。

[0028] 前記 R^2 、前記 R^3 、及び前記 R^4 としては、例えば、水素原子、メチル基、エチル基、プロピル基、ブチル基などの置換基が挙げられる。前記置換基を置換反応することにより、ヒドロキシアアルキル化シクロデキストリン；ジヒドロキシプロピルシクロデキストリン等のヒドロキシアアルキル化シクロデキストリン誘導体を得ることができる。なお、前記 R^2 、前記 R^3 、及び前記 R^4 が同時に水素原子となることはない。

[0029] 前記 n としては、6～8の整数であり、7が好ましい。

前記ヒドロキシアアルキル化シクロデキストリンのシクロデキストリン部分としては、例えば、グルコースが6個環状に結合した α -シクロデキストリン、グルコースが7個環状に結合した β -シクロデキストリン、グルコースが8個環状に結合した γ -シクロデキストリンなどが挙げられる。これらの中でも、消臭力、消臭力の持続性、泡の弾力感、及び泡の持続性の点から、 β -シクロデキストリンが好ましい。

[0030] 前記ヒドロキシアアルキル化シクロデキストリンとしては、例えば、ヒドロキシメチル- α -シクロデキストリン、ヒドロキシメチル- β -シクロデキストリン、ヒドロキシメチル- γ -シクロデキストリン、ヒドロキシエチル- α -シクロデキストリン、ヒドロキシエチル- β -シクロデキストリン、ヒドロキシエチル- γ -シクロデキストリン、ヒドロキシプロピル- α -シ

クロデキストリン、ヒドロキシプロピルー β -シクロデキストリン、ヒドロキシプロピルー γ -シクロデキストリン、ヒドロキシブチルー α -シクロデキストリン、ヒドロキシブチルー β -シクロデキストリン、ヒドロキシブチルー γ -シクロデキストリンなどが挙げられる。これらは、1種単独で使用してもよく、2種以上を併用してもよい。これらの中でも、消臭力、消臭力の持続性、泡の弾力感、及び泡の持続性の点から、ヒドロキシエチルー β -シクロデキストリン、ヒドロキシプロピルー β -シクロデキストリンが好ましく、ヒドロキシプロピルー β -シクロデキストリンがより好ましい。

[0031] 前記ヒドロキシアルキル化シクロデキストリンのヒドロキシアルキル基の置換度は、1シクロデキストリンあたり、消臭力の点から、1～14が好ましい。前記置換度が、1未満又は14を超えると、消臭力が不十分となることがある。

[0032] 前記ヒドロキシアルキル化シクロデキストリンとしては、市販品を用いることができ、前記市販品としては、例えば、商品名：セルデックスHP- β -CD（ヒドロキシプロピルー β -シクロデキストリン、日本食品化工株式会社製）などが挙げられる。

[0033] 前記（B）成分の高度分岐環状デキストリン及びヒドロキシアルキル化シクロデキストリンから選択される少なくとも1種の含有量としては、消臭力、消臭力の持続性、泡の弾力感、泡の持続性、及び洗浄後の肌のしっとり感の点から、皮膚洗浄剤組成物全量に対して、0.2質量%～10質量%であり、0.5質量%～10質量%が好ましく、0.5質量%～5.5質量%がより好ましい。前記含有量が、0.2質量%未満であると、消臭力、消臭力の持続性、泡の弾力感、泡の持続性、及び洗浄後の肌のしっとり感が不十分となり、10質量%を超えると、泡の弾力感、及び泡の持続性が不十分となる。

[0034] <（C）両性界面活性剤及びアルキルアミノオキサイド>

前記（C）成分の両性界面活性剤及びアルキルアミノオキサイドは、消臭力、消臭力の持続性、洗浄力、泡の弾力感、及び泡の持続性を向上させるた

めに含有されている。

前記（C）成分としては、例えば、両性界面活性剤、アルキルアミノオキサイドなどが挙げられる。これらは、1種単独で使用してもよいし、2種以上を併用してもよい。これらの中でも、消臭力、消臭力の持続性、洗浄力、泡の弾力感、及び泡の持続性の点から、アルキルアミノオキサイドが好ましい。

[0035] <<両性界面活性剤>>

前記両性界面活性剤は、洗浄力、泡の弾力感、及び泡の持続性を向上させることができる。

[0036] 前記両性界面活性剤としては、例えば、ベタイン型両性界面活性剤、アミノプロピオン酸型両性界面活性剤、アルキルアミドアミノ酸塩型両性界面活性剤などが挙げられる。これらは、1種単独で使用してもよいし、2種以上を併用してもよい。これらの中でも、洗浄力、泡の弾力感、及び泡の持続性の点から、ベタイン型両性界面活性剤、アミノプロピオン酸型両性界面活性剤が好ましい。

[0037] 前記ベタイン型両性界面活性剤としては、例えば、カルボベタイン型両性界面活性剤、スルホベタイン型両性界面活性剤、ホスホベタイン型両性界面活性剤、イミダゾリンベタイン型両性界面活性剤などが挙げられる。これらの中でも、洗浄力、泡の弾力感、及び泡の持続性の点から、カルボベタイン型両性界面活性剤が好ましく、アルキル鎖の炭素数が12～18である一価炭化水素基を有するカルボベタイン型両性界面活性剤がより好ましく、アルキル鎖の炭素数が12～16である一価炭化水素基を有するカルボベタイン型両性界面活性剤が特に好ましい。

[0038] 前記カルボベタイン型両性界面活性剤としては、例えば、アルキルベタイン型両性界面活性剤、アルキルアミドベタイン型両性界面活性剤などが挙げられる。これらは、1種単独で使用してもよいし、2種以上を併用してもよい。これらの中でも、洗浄力、泡の弾力感、及び泡の持続性の点から、アルキルベタイン型両性界面活性剤が好ましい。

前記アルキルベタイン型両性界面活性剤としては、例えば、ラウリルジメチルアミノ酢酸ベタイン、ステアリルジメチルアミノ酢酸ベタインなどが挙げられる。これらは、1種単独で使用してもよいし、2種以上を併用してもよい。

前記アルキルアミドベタイン型両性界面活性剤としては、例えば、ラウリン酸アミドプロピルベタイン、ヤシ油脂肪酸アミドプロピルベタインなどが挙げられる。これらは、1種単独で使用してもよいし、2種以上を併用してもよい。

[0039] 前記スルホベタイン型両性界面活性剤としては、例えば、アルキルスルホベタイン型両性界面活性剤、アルキルヒドロキシスルホベタイン型両性界面活性剤などが挙げられる。

前記アルキルスルホベタイン型両性界面活性剤としては、例えば、ヤシ油脂肪酸ジメチルスルホプロピルベタインなどが挙げられる。

前記アルキルヒドロキシスルホベタイン型両性界面活性剤としては、例えば、ラウリルジメチルアミノヒドロキシスルホベタインなどが挙げられる。

[0040] 前記ホスホベタイン型両性界面活性剤としては、例えば、ラウリルヒドロキシホスホベタインなどが挙げられる。

[0041] 前記イミダゾリンベタイン型両性界面活性剤としては、例えば、ヤシ油アルキルーN-ヒドロキシエチルイミダゾリニウムベタインなどが挙げられる。

[0042] 前記アミノプロピオン酸型両性界面活性剤としては、例えば、ラウリルアミノプロピオン酸ナトリウム、ラウリルアミノジプロピオン酸ナトリウム、ラウリルアミノプロピオン酸トリエタノールアミン、ラウリルアミノジプロピオン酸トリエタノールアミン、ヤシ油脂肪酸アシルーN-カルボキシエチルーN-ヒドロキシエチルエチレンジアミンナトリウムなどが挙げられる。これらは1種単独で使用してもよいし、2種以上を併用してもよい。これらの中でも、洗浄力、泡の弾力感、及び泡の持続性の点から、ラウリルアミノプロピオン酸ナトリウム、ラウリルアミノジプロピオン酸ナトリウムが好ま

しく、ラウリルアミノプロピオン酸ナトリウムがより好ましい。

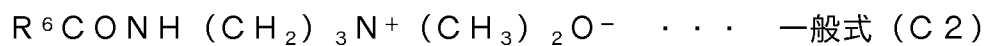
- [0043] 前記アルキルアミドアミノ酸塩型両性界面活性剤としては、例えば、カプリル酸ジメチルアミノプロピルアミド、カプリン酸ジメチルアミノプロピルアミド、ラウリン酸ジメチルアミノプロピルアミド、ミリスチン酸ジメチルアミノプロピルアミド、パルミチン酸ジメチルアミノプロピルアミド、ステアリン酸ジメチルアミノプロピルアミド、ベヘニン酸ジメチルアミノプロピルアミド、オレイン酸ジメチルアミノプロピルアミド等の長鎖脂肪族アミドアルキル 3 級アミンの塩；パルミチン酸ジエタノールアミノプロピルアミド塩、ステアリン酸ジエタノールアミノプロピルアミド塩などが挙げられる。これらは 1 種単独で使用してもよいし、2 種以上を併用してもよい。

前記塩の対イオンとしては、例えば、アルカリ金属イオン、アンモニウムイオン、アルカノールアミンイオンなどが挙げられる。これらの中でも、洗浄力の点から、アルカリ金属イオンが好ましく、ナトリウムイオン、カリウムイオンがより好ましく、ナトリウムイオンが特に好ましい。

- [0044] <<アルキルアミンオキサイド>>

前記アルキルアミンオキサイドは、洗浄力、泡の弾力感、泡の持続性、及び洗浄後の肌のしっとり感を向上できると共に、メカニズムは明らかでないが、反応性消臭効果により、におい汚れの原因となる物質と反応して消臭力、及び消臭力の持続性を向上することができる。

- [0045] 前記アルキルアミンオキサイドとしては、下記一般式 (C 1) で表される化合物、及び下記一般式 (C 2) で表される化合物が好ましい。



前記一般式 (C 1) 及び一般式 (C 2) 中、 R^5 及び R^6 としては、泡の弾力感、及び泡の持続性の点から、炭素数 12～18 の直鎖又は分岐鎖の一価炭化水素基が好ましく、炭素数が 12～14 がより好ましい。

- [0046] 前記アルキルアミンオキサイドとしては、例えば、ラウラミドプロピルアミンオキサイド、ココミドプロピルアミンオキサイド等の脂肪酸アミドプロ

ピルアミンオキシド；ラウリルジメチルアミンオキサイド、ヤシ油アルキルジメチルアミンオキサイドなどが挙げられる。これらは、1種単独で使用してもよいし、2種以上を併用してもよい。これらの中でも、消臭力、消臭力の持続性、洗浄力、及び泡の持続性の点から、ラウリルジメチルアミンオキサイドが好ましい。

[0047] 前記（C）成分の両性界面活性剤及びアルキルアミンオキサイドから選択される少なくとも1種の含有量としては、皮膚洗浄剤組成物全量に対して、0.3質量％～10質量％であり、消臭力、消臭力の持続性、泡の持続性、及び洗浄力の点から、0.5質量％～10質量％が好ましく、0.5質量％～5質量％より好ましく、2質量％～5質量％が特に好ましい。前記含有量が、0.3質量％未満であると、消臭力、消臭力の持続性、洗浄力、及び泡の持続性が不十分となり、10質量％を超えると、洗浄後の肌のしっとり感が不十分となる。

[0048] <質量比（B／C）>

前記（B）成分の高度分岐環状デキストリン及びヒドロキシアルキル化シクロデキストリンから選択される少なくとも1種の含有量（質量％）と、前記（C）両性界面活性剤及びアルキルアミンオキサイドから選択される少なくとも1種の含有量（質量％）との質量比（B／C）としては、消臭力、洗浄力、泡の弾力感、泡の持続性、及び洗浄後の肌のしっとり感の点から、0.1～30であり、0.2～30が好ましく、0.2～10がより好ましい。前記質量比（B／C）が、0.1未満であると、消臭力、泡の弾力感、泡の持続性、及び洗浄後の肌のしっとり感が不十分となり、30を超えると、消臭力、洗浄力、泡の弾力感、泡の持続性、及び洗浄後の肌のしっとり感が不十分となる。

[0049] <（D）殺菌剤>

前記（D）成分の殺菌剤は、消臭力の持続性を向上させるために含有されることが好ましい。

前記におい汚れ、特に魚を処理した手指に付着した魚のにおい物質に起因

するにおい汚れは、洗浄力のみによっては完全に除去されにくく、手指に残った前記物質に菌が付着し増殖することにより、におい汚れが残存することがある。よって、前記菌の増殖を抑制することにより、消臭力の持続性をより効果的に発揮することができる。

[0050] 前記（D）成分の殺菌剤としては、例えば、トリクロサン、イソプロピルメチルフェノール、塩化ベンザルコニウム、塩化ベンゼトニウム、トリクロロカルバニリド、塩酸クロルヘキシジン、ピロクトンオラミン、クララエキスなどが挙げられる。これらは、1種単独で使用してもよく、2種以上を併用してもよい。これらの中でも、消臭力の持続性の点から、イソプロピルメチルフェノール、塩化ベンザルコニウムが好ましい。

[0051] 前記（D）成分の殺菌剤の含有量としては、消臭力の持続性の点から、皮膚洗浄剤組成物全量に対して、0.01質量%～0.2質量%が好ましく、0.05質量%～0.2質量%がより好ましい。前記含有量が、0.01質量%未満であると、十分な殺菌効果が出ず、消臭力の持続性が得られないことがあり、0.2質量%を超えると、皮膚刺激等の不都合が生じることがある。

[0052] <その他の成分>

前記皮膚洗浄剤組成物は、前記（A）～前記（D）の各成分以外にも、本発明の効果を損なわない範囲で、その他の成分を配合することができる。前記その他の成分としては、皮膚洗浄剤組成物に通常用いられているものの中から適宜選択することができ、例えば、ポリオキシエチレンアルキルエーテル硫酸塩等のアニオン性界面活性剤；ポリオキシエチレンアルキルエーテル等のノニオン性界面活性剤；油分；シリコーン類；低級又は高級アルコール等のアルコール類；ラノリン誘導体；蛋白誘導体；アクリル樹脂分散液；カチオン性ポリマー；アニオン性ポリマー；ノニオン性ポリマー；ビタミン等の薬剤；防腐剤；pH調整剤（例えば、水酸化カリウム、クエン酸等）；酸化防止剤；金属封鎖剤；紫外線吸収剤；動植物抽出物又はその誘導体；色素；香料；顔料；無機粉体；粘土鉱物；ナイロン、ポリエチレン等の水不溶性

ポリマー粉体；水などが挙げられる。

[0053] ー製造方法ー

前記皮膚洗浄剤組成物の製造方法としては、特に制限はなく、目的に応じて適宜選択することができ、例えば、前記（Ａ）～前記（Ｃ）成分、必要に応じて、その他の成分、前記（Ｄ）成分、及び水（皮膚洗浄剤組成物の全体が１００質量％となるように残量配合）を混合して作製することができる。また、前記皮膚洗浄剤組成物を調製する装置としては、特に制限はなく、目的に応じて適宜選択することができ、例えば、剪断と全体混合できる複数の攪拌羽根（プロペラ、タービン、ディスパー等）を備えた攪拌装置が挙げられる。なお、前記（Ａ）～前記（Ｃ）成分、必要に応じて前記（Ｄ）成分、及び前記その他の成分は、皮膚洗浄剤組成物を調製するにあたり、それぞれ単独で使用してもよく、また、２種以上の成分を含む混合物の状態で使用してもよい。

[0054] ーｐＨー

前記皮膚洗浄剤組成物の２５℃におけるｐＨとしては、安定性の点から、９～１１が好ましい。

前記皮膚洗浄剤組成物のｐＨとしては、すべての成分を混合した後に最後にｐＨを確認しながら水酸化カリウム及び／又はクエン酸等を加えることで、調整できる。より詳しくは、水酸化カリウム及び／又はクエン酸等以外の成分の合計が約９８質量％となるように精製水をバランスして混合攪拌する。必要なら加温してもよい。混合攪拌中にクエン酸などの水溶液を徐々に添加し、それぞれｐＨを測定しながら目標とするｐＨまで添加する。目標ｐＨとなったところで、最後に残りの精製水を加えて、全体で１００質量％となるように水を加える。なお、ｐＨの測定方法は、医薬部外品原料規格２００６一般試験法ｐＨ測定法に準拠して測定することができ、例えば、ｐＨメーター（商品名：ＨＭ－３０Ｖ、東亜ディーケーケー株式会社製）で測定することができる。

[0055] ー性状ー

前記皮膚洗浄剤組成物の性状については、特に制限はなく、目的に応じて適宜選択することができるが、常温（25℃）で液体状が好ましい。

前記皮膚洗浄剤組成物の粘度（25℃）としては、15 mPa・s以下が好ましく、1 mPa・s～10 mPa・sがより好ましい。前記粘度が、15 mPa・sを超えると、皮膚洗浄剤組成物をポンプフォーマー容器から吐出することができないことがある。

前記粘度としては、例えば、BL型粘度計（東京計器株式会社製）を用いて、25℃条件下で、No. 1のローターを使用し、60 rpmで1分間の条件で測定することができる。

[0056] ー容器ー

前記皮膚洗浄剤組成物の容器としては、例えば、スクイズ容器、ポンプ容器、フォーマー容器などが挙げられる。

前記ポンプ容器としては、例えば、ポンプディスペンサー容器、ミストディスペンサー容器などが挙げられる。

前記ポンプディスペンサー容器としては、例えば、商品名：P1-1、株式会社キャニオン製、吐出量：1 mL、ノズル口径：直径3.6 mm）、商品名：P3.5BS（株式会社キャニオン製、吐出量：3.5 mL、ノズル口径：直径4.0 mm）などが挙げられる。

前記ミストディスペンサー容器としては、例えば、商品名：Z-35-ST（NT5）（株式会社三谷バルブ製）などが挙げられる。

前記フォーマー容器としては、例えば、ノンガス型の泡吐出容器などが挙げられる。

前記ノンガス型の泡吐出容器としては、泡を形成するための多孔質膜体を有し、皮膚洗浄剤組成物を空気と混合して発泡状態で吐出できるものであれば特に制限はなく、目的に応じて適宜選択することができ、例えば、ボトル胴部を手で圧搾することによって泡を吐出できるスクイズフォーマー容器、ノズル部を押し下げることによって泡を吐出できるポンプフォーマー容器などが挙げられる。前記スクイズフォーマー容器、及びポンプフォーマー容器

としては、例えば、大和製罐株式会社製、株式会社吉野工業所製などを使用することができる。

[0057] 前記多孔質膜体の材質としては、例えば、ナイロン、ポリエステル、ポリオレフィンなどのプラスチック材料が好ましい。前記多孔質膜体のメッシュとしては、特に制限はなく、目的に応じて適宜選択することができるが、例えば、100メッシュ以上が好ましく、100メッシュ～400メッシュがより好ましく、200メッシュ～350メッシュが特に好ましい。前記多孔質膜体のメッシュが、100メッシュ未満であると、泡の弾力感、及び泡の持続性が不十分となることがある。

前記多孔質膜体の枚数としては、泡の弾力感、及び泡の持続性の点から、2枚～4枚が好ましい。前記枚数が、2枚未満又は4枚を超えると、泡の弾力感、及び泡の持続性が不十分となることがある。より具体的には、特開平7-315463号公報、特開平8-230961号公報、及び特開2005-193972号公報に記載されたフォーマー容器を好適に使用することができる。

[0058] 一用途一

本発明の皮膚洗浄剤組成物としては、洗浄力、泡の弾力感、及び泡の持続性が良好であり、消臭力、消臭力の持続性、及び洗浄後の肌のしっとり感に優れるため、例えば、ボディソープ、ハンドソープ、泡ハンドソープ、液体ハンドソープ、洗顔料、キッチン用ハンドソープなどに好適に適用することができる。

実施例

[0059] 以下に、本発明を実施例、及び比較例に基づいて更に具体的に説明するが、本発明は、下記実施例に制限されるものではない。なお、実施例、及び比較例の記載の各成分の含有量は、全て純分換算した値である。

[0060] 一ハンドソープ一

(実施例1～47、及び比較例1～10)

下記表1～表9に示す組成、及び含有量の皮膚洗浄剤組成物を以下の方法

で調製した。即ち、共通成分である精製水に、(A)成分及び(C)成分を溶解させた後、(B)成分を溶解させた。その後、必要に応じて(D)成分、及び共通成分を添加し、均一に溶解して皮膚洗浄剤組成物を調製した。

調製した実施例1～47及び比較例1～10の皮膚洗浄剤組成物のpHは、クエン酸及び水酸化カリウムで10.2に調整した。前記pHは、pHメーター(商品名:「HM-30V」、東亜ディーケーケー株式会社製)を用いて25℃で測定した。

次に、実施例1～47、及び比較例1～10の皮膚洗浄剤組成物をポンプディスペンサー容器(商品名:P1-1、株式会社キャニオン社製、吐出量:1mL、ノズル口径:直径3.6mm)に40mL充填した。

[0061] 調製した実施例1～47、及び比較例1～10のポンプディスペンサー容器に充填された皮膚洗浄剤組成物(ハンドソープ)について、以下のようにして、「消臭力」、「消臭力の持続性」、「洗浄力」、「泡の弾力感」、「泡の持続性」、及び「洗浄後の肌のしっとり感」を評価した。結果を表1～表9に示した。

[0062] <消臭力、及び消臭力の持続性>

専門パネラー10名が、生のアジ1gを両手指全体に伸ばし、両手を水で濡らした後、各皮膚洗浄剤組成物1gを手にとって20秒間手をこすり合わせた後、流水中で約10秒間すすぎ、タオルドライ後、下記判断基準に従って平均評価点を求めた。次に、下記消臭力の評価基準に従って、魚のにおいに対する「消臭力」を評価した。その後、3時間後に、前記「消臭力」の評価と同様にして、手に残った魚のにおいを嗅ぎ、下記判断基準に従って平均評価点を求めた。次に、下記消臭力の持続性の評価基準に従って、魚のにおいに対する「消臭力の持続性」を評価した。

—消臭力、及び消臭力の持続性の判断基準—

5点: 魚のにおいが全く感じられない

4点: 魚のにおいが感じられない

3点: 魚のにおいがほとんど感じられない

2点：魚のにおいがやや感じられる

1点：魚のにおいが感じられる

－消臭力の評価基準－

◎：4.0点以上

○：3.0点以上4.0点未満

△：2.0点以上3.0点未満

×：2.0点未満

－消臭力の持続性の評価基準－

◎：4.5点以上

◎～○：4.0点以上4.5点未満

○：3.0点以上4.0点未満

△：2.0点以上3.0点未満

×：2.0点未満

[0063] <洗浄力>

専門パネラー10名が、牛脂0.2gを両手指全体に伸ばし、両手を水で濡らした後、各皮膚洗浄剤組成物1gを手にとって20秒間手をこすり合わせた後、流水中で約10秒間すすぎ、タオルドライ後、下記判断基準に従って平均評価点を求めた。次に、下記評価基準に従って、脂汚れに対する「洗浄力」を評価した。

－判断基準－

5点：脂汚れが全て除去されている

4点：脂汚れが除去されている

3点：脂汚れがほとんど除去されている

2点：脂汚れがやや除去されていない

1点：脂汚れが除去されていない

－評価基準－

◎：4.0点以上

○：3.0点以上4.0点未満

△ : 2. 0 点以上 3. 0 点未満

× : 2. 0 点未満

[0064] <泡の弾力感、及び泡の持続性>

専門パネラー 10 名が、各皮膚洗浄剤組成物 1 g を手にとって 20 秒間手をこすり泡立てた後、生じた泡について、下記泡の弾力感の評価基準により、「泡の弾力感」を評価した。次に、下記泡の持続性評価基準に従って「泡の持続性」を評価した。

—泡の弾力感の評価基準—

◎ : 専門パネラー 10 名中 9 名以上が泡に弾力があると回答

○ : 専門パネラー 10 名中 7 名以上 8 名以下が泡に弾力があると回答

△ : 専門パネラー 10 名中 5 名以上 6 名以下が泡に弾力があると回答

× : 専門パネラー 10 名中 4 名以下が泡に弾力があると回答

—泡の持続性評価基準—

◎ : 専門パネラー 10 名中 9 名以上が泡の持続性があると回答

○ : 専門パネラー 10 名中 7 名以上 8 名以下が泡の持続性があると回答

△ : 専門パネラー 10 名中 5 名以上 6 名以下が泡の持続性があると回答

× : 専門パネラー 10 名中 4 名以下が泡の持続性があると回答

[0065] <洗浄後の肌のしっとり感>

専門パネラー 10 名が、両手を水で濡らした後、各皮膚洗浄剤組成物 1 g を手にとって 20 秒間手をこすり合わせた後、流水中で約 10 秒間すすぎ、タオルドライ後、下記判断基準に従って平均評価点を求めた。次に、下記評価基準に従って、「洗浄後の肌のしっとり感」を評価した。

—判断基準—

5 点 : 洗浄後の肌のしっとり感が非常にある

4 点 : 洗浄後の肌のしっとり感がある

3 点 : 洗浄後の肌のしっとり感がややある

2点：洗浄後の肌のしっとり感がややない

1点：洗浄後の肌のしっとり感がない

－評価基準－

◎：4.0点以上

○：3.0点以上4.0点未満

△：2.0点以上3.0点未満

×：2.0点未満

[0066] [表1]

		実施例						
		1	2	3	4	5	6	7
(A) 成分	ラウリン酸カリウム	5	7	—	—	—	—	3
	ミリスチン酸カリウム	2	—	7	—	—	—	1
	パルミチン酸カリウム	—	—	—	7	—	—	—
	ステアリン酸カリウム	—	—	—	—	7	—	—
	ヤシ油脂肪酸カリウム	—	—	—	—	—	7	—
(B) 成分	高度分岐環状デキストリン	1	1	1	1	1	1	1
	ヒドロキシプロピル-β-シクロデキストリン	—	—	—	—	—	—	—
(B') 成分	α-シクロデキストリン	—	—	—	—	—	—	—
	β-シクロデキストリン	—	—	—	—	—	—	—
	γ-シクロデキストリン	—	—	—	—	—	—	—
(C) 成分	ラウリルジメチルアミノキサイト	2	2	2	2	2	2	2
	ラウリルジメチルアミノ酢酸ヘタイン	—	—	—	—	—	—	—
	ラウリン酸アミドプロピルヘタイン	—	—	—	—	—	—	—
	ラウリルアミノプロピオン酸ナトリウム	—	—	—	—	—	—	—
共通 成分	モノエタノールアミン	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
	エト酸	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
	水酸化カリウム(48質量%)及びクエン酸	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量
	精製水	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量
合計(質量%)		100	100	100	100	100	100	100
質量比(B/C)		0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
質量比(ラウリン酸カリウム/ミリスチン酸カリウム)		2.5	—	—	—	—	—	3
評価 結果	消臭力	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	消臭力の持続性	◎～○	○	○	○	○	◎～○	○
	洗浄力	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	泡の弾力感	◎	○	○	○	○	◎	○
	泡の持続性	◎	○	○	○	○	◎	○
	洗浄後の肌のしっとり感	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

[0067] [表2]

		実施例						
		8	9	10	11	12	13	14
(A) 成分	ラウリン酸カリウム	7	10	5	5	5	10	5
	ミリスチン酸カリウム	3	5	1	1.5	0.5	0.5	2
	パルミチン酸カリウム	—	—	0.5	—	—	—	2
	ステアリン酸カリウム	—	—	0.5	—	—	—	—
	ヤシ油脂肪酸カリウム	—	—	—	—	—	—	—
(B) 成分	高度分岐環状テ`キストリン	1	1	1	1	1	1	1
	ヒド`ロキンプ`ロピル-β-シクロテ`キストリン	—	—	—	—	—	—	—
(B`) 成分	α-シクロテ`キストリン	—	—	—	—	—	—	—
	β-シクロテ`キストリン	—	—	—	—	—	—	—
	γ-シクロテ`キストリン	—	—	—	—	—	—	—
(C) 成分	ラウリルジ`メチルアミノキサイト`	2	2	2	2	2	2	2
	ラウリルジ`メチルアミノ酢酸ヘ`タイン	—	—	—	—	—	—	—
	ラウリン酸アミド`プロピルヘ`タイン	—	—	—	—	—	—	—
	ラウリアルミノ`プロピオン酸ナトリウム	—	—	—	—	—	—	—
共通 成分	モノエタノールアミン	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
	エデ`ト酸	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
	水酸化カリウム(48質量%)及びクエン酸	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量
	精製水	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量
合計(質量%)		100	100	100	100	100	100	100
質量比(B/C)		0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
質量比(ラウリン酸カリウム/ミリスチン酸カリウム)		2.3	2	5	3.3	10	20	2.5
評価 結果	消臭力	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	消臭力の持続性	◎~○	◎~○	◎~○	◎~○	◎~○	◎~○	◎~○
	洗浄力	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	泡の弾力感	◎	◎	◎	◎	○	○	◎
	泡の持続性	◎	◎	◎	◎	○	○	◎
	洗浄後の肌のしっとり感	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

[0068]

[表3]

		実施例						
		15	16	17	18	19	20	21
(A) 成分	ラウリン酸カリウム	5	5	5	5	5	5	5
	ミリスチン酸カリウム	2	2	2	2	2	2	2
	パルミチン酸カリウム	—	—	—	—	—	—	—
	ステアリン酸カリウム	—	—	—	—	—	—	—
	ヤシ油脂肪酸カリウム	2	—	—	—	—	—	—
(B) 成分	高度分岐環状テキストリン	1	0.2	0.5	3	5	10	—
	ヒドロキシプロピル-β-シクロテキストリン	—	—	—	—	—	—	1
(B') 成分	α-シクロテキストリン	—	—	—	—	—	—	—
	β-シクロテキストリン	—	—	—	—	—	—	—
	γ-シクロテキストリン	—	—	—	—	—	—	—
(C) 成分	ラウリルジメチルアミノキサイト	2	2	2	2	2	2	2
	ラウリルジメチルアミノ酢酸ヘタイン	—	—	—	—	—	—	—
	ラウリン酸アミトプロピルヘタイン	—	—	—	—	—	—	—
	ラウリルアミプロピオン酸ナトリウム	—	—	—	—	—	—	—
共通 成分	モノエタノールアミン	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
	エデト酸	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
	水酸化カリウム(48質量%)及びクエン酸	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量
	精製水	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量
合計(質量%)		100	100	100	100	100	100	100
質量比(B/C)		0.5	0.1	0.3	1.5	2.5	5	0.5
質量比(ラウリン酸カリウム/ミリスチン酸カリウム)		2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5
評価 結果	消臭力	◎	○	◎	◎	◎	◎	○
	消臭力の持続性	◎～○	○	◎～○	◎～○	◎～○	◎～○	○
	洗浄力	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	泡の弾力感	◎	○	◎	◎	◎	○	○
	泡の持続性	◎	○	◎	◎	◎	○	○
	洗浄後の肌のしっとり感	◎	○	◎	◎	◎	◎	○

[0069]

[表4]

		実施例						
		22	23	24	25	26	27	28
(A) 成分	ラウリン酸カリウム	5	5	5	5	5	5	5
	ミリスチン酸カリウム	2	2	2	2	2	2	2
	パルミチン酸カリウム	—	—	—	—	—	—	—
	ステアリン酸カリウム	—	—	—	—	—	—	—
	ヤシ油脂肪酸カリウム	—	—	—	—	—	—	—
(B) 成分	高度分岐環状テキストリン	1	1	1	1	1	1	1
	ヒドロキシプロピル-β-シクロテキストリン	—	—	—	—	—	—	—
(B') 成分	α-シクロテキストリン	—	—	—	—	—	—	—
	β-シクロテキストリン	—	—	—	—	—	—	—
	γ-シクロテキストリン	—	—	—	—	—	—	—
(C) 成分	ラウリルジメチルアミノキサイト*	0.3	0.5	4	5	10	—	—
	ラウリルジメチルアミノ酢酸ヘタイン	—	—	—	—	—	2	—
	ラウリン酸アミトプロピルヘタイン	—	—	—	—	—	—	2
	ラウリルアミノプロピオン酸ナトリウム	—	—	—	—	—	—	—
共通 成分	モノエタノールアミン	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
	エト酸	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
	水酸化カリウム(48質量%)及びクエン酸	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量
	精製水	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量
合計(質量%)		100	100	100	100	100	100	100
質量比(B/C)		3.3	2	0.3	0.2	0.1	0.5	0.5
質量比(ラウリン酸カリウム/ミリスチン酸カリウム)		2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5
評価 結果	消臭力	○	○	◎	◎	○	○	○
	消臭力の持続性	○	○	◎～○	◎～○	◎～○	○	○
	洗浄力	○	○	◎	◎	◎	○	○
	泡の弾力感	◎	◎	◎	◎	○	○	○
	泡の持続性	○	○	◎	◎	○	○	○
	洗浄後の肌のしっとり感	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎

[0070]

[表5]

		実施例						
		29	30	31	32	33	34	35
(A) 成分	ラウリン酸カリウム	5	5	5	5	5	5	5
	ミリスチン酸カリウム	2	2	2	2	2	2	2
	パルミチン酸カリウム	—	—	—	—	—	—	—
	ステアリン酸カリウム	—	—	—	—	—	—	—
	ヤシ油脂肪酸カリウム	—	—	—	—	—	—	—
(B) 成分	高度分岐環状デキストリン	1	1	1	1	1	1	1
	ヒドロキシプロピル-β-シクロデキストリン	—	—	—	—	—	—	—
(B') 成分	α-シクロデキストリン	—	—	—	—	—	—	—
	β-シクロデキストリン	—	—	—	—	—	—	—
	γ-シクロデキストリン	—	—	—	—	—	—	—
(C) 成分	ラウリルジメチルアミノキサイド	—	2	2	2	—	—	—
	ラウリルジメチルアミノ酢酸ベータイン	—	2	—	—	2	2	—
	ラウリン酸アミドプロピルベータイン	—	—	2	—	2	—	2
	ラウリルアミノプロピオン酸ナトリウム	2	—	—	2	—	2	2
共通 成分	モノエタノールアミン	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
	エデト酸	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
	水酸化カリウム(48質量%)及びクエン酸	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量
	精製水	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量
合計(質量%)		100	100	100	100	100	100	100
質量比(B/C)		0.5	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
質量比(ラウリン酸カリウム/ミリスチン酸カリウム)		2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5
評価 結果	消臭力	○	◎	◎	◎	○	○	○
	消臭力の持続性	○	◎～○	◎～○	◎～○	○	○	○
	洗浄力	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	泡の弾力感	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	泡の持続性	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	洗浄後の肌のしっとり感	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

[0071]

[表6]

		実施例					
		36	37	38	39	40	41
(A) 成分	ラウリン酸カリウム	5	5	5	5	5	5
	ミリスチン酸カリウム	2	2	2	2	2	2
	パルミチン酸カリウム	—	—	—	—	—	—
	ステアリン酸カリウム	—	—	—	—	—	—
	ヤシ油脂脂肪酸カリウム	—	—	—	—	—	—
(B) 成分	高度分岐環状テキストリン	0.55	1	5	5.45	6	9
	ヒドロキシプロピル-β-シクロデキストリン	—	—	—	—	—	—
(B') 成分	α-シクロデキストリン	—	—	—	—	—	—
	β-シクロデキストリン	—	—	—	—	—	—
	γ-シクロデキストリン	—	—	—	—	—	—
(C) 成分	ラウリルジメチルアミノキサイト [*]	5.5	5.0	1.0	0.55	0.3	0.3
	ラウリルジメチルアミノ酢酸ベタイン	—	—	—	—	—	—
	ラウリン酸アミドプロピルベタイン	—	—	—	—	—	—
	ラウリルアミノプロピオン酸ナトリウム	—	—	—	—	—	—
共通 成分	モノエタノールアミン	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
	エデト酸	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
	水酸化カリウム(48質量%)及びクエン酸	適量	適量	適量	適量	適量	適量
	精製水	残量	残量	残量	残量	残量	残量
合計(質量%)		100	100	100	100	100	100
質量比(B/C)		0.1	0.2	5	10	20	30
質量比(ラウリン酸カリウム/ミリスチン酸カリウム)		2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5
評価 結果	消臭力	○	◎	○	○	○	○
	消臭力の持続性	◎~○	◎~○	○	○	○	○
	洗浄力	◎	◎	○	○	○	○
	泡の弾力感	○	◎	◎	◎	○	○
	泡の持続性	○	◎	○	○	○	○
	洗浄後の肌のしっとり感	○	◎	◎	◎	○	○

[0072]

[表7]

		比較例					
		1	2	3	4	5	6
(A) 成分	ラウリン酸カリウム	—	5	5	5	5	5
	ミリスチン酸カリウム	—	2	2	2	2	2
	パルミチン酸カリウム	—	—	—	—	—	—
	ステアリン酸カリウム	—	—	—	—	—	—
	ヤシ油脂肪酸カリウム	—	—	—	—	—	—
(B) 成分	高度分岐環状デキストリン	1	0.1	11	—	—	—
(B') 成分	α -シクロデキストリン	—	—	—	1	—	—
	β -シクロデキストリン	—	—	—	—	1	—
	γ -シクロデキストリン	—	—	—	—	—	1
(C) 成分	ラウリルジメチルアミノキサイド*	2	2	2	2	2	2
	ラウリルジメチルアミノ酢酸ベータイン	—	—	—	—	—	—
	ラウリン酸アミトプロピルベータイン	—	—	—	—	—	—
	ラウリルアミノプロピオン酸ナトリウム	—	—	—	—	—	—
共通 成分	モノエタノールアミン	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
	エデット酸	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
	水酸化カリウム(48質量%)及びクエン酸	適量	適量	適量	適量	適量	適量
	精製水	残量	残量	残量	残量	残量	残量
合計(質量%)		100	100	100	100	100	100
質量比(B/C)		0.5	0.1	5.5	—	—	—
質量比(ラウリン酸カリウム/ミリスチン酸カリウム)		—	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5
評価 結果	消臭力	○	△	◎	△	△	△
	消臭力の持続性	△	△	◎	△	△	△
	洗浄力	△	◎	◎	○	○	○
	泡の弾力感	×	△	△	△	△	△
	泡の持続性	×	△	△	△	△	△
	洗浄後の肌のしっとり感	◎	△	◎	△	△	△

[0073]

[表8]

		比較例			
		7	8	9	10
(A) 成分	ラウリン酸カリウム	5	5	5	5
	ミリスチン酸カリウム	2	2	2	2
	パルミチン酸カリウム	—	—	—	—
	ステアリン酸カリウム	—	—	—	—
	ヤシ油脂肪酸カリウム	—	—	—	—
(B) 成分	高度分岐環状デキストリン	1	1	0.2	10
(B') 成分	α -シクロデキストリン	—	—	—	—
	β -シクロデキストリン	—	—	—	—
	γ -シクロデキストリン	—	—	—	—
(C) 成分	ラウリルジメチルアミノオキサイト	0.2	11	5	0.3
	ラウリルジメチルアミノ酢酸ベータイン	—	—	—	—
	ラウリン酸アミトプロピルベータイン	—	—	—	—
	ラウリルアミノプロピオン酸ナトリウム	—	—	—	—
共通 成分	モノエタノールアミン	0.5	0.5	0.5	0.5
	エト酸	0.1	0.1	0.1	0.1
	水酸化カリウム(48質量%)及びクエン酸	適量	適量	適量	適量
	精製水	残量	残量	残量	残量
合計(質量%)		100	100	100	100
質量比(B/C)		5	0.1	0.04	33
質量比(ラウリン酸カリウム/ミリスチン酸カリウム)		2.5	2.5	2.5	2.5
評価 結果	消臭力	△	○	△	△
	消臭力の持続性	△	◎	○	○
	洗浄力	△	◎	○	△
	泡の弾力感	◎	△	△	△
	泡の持続性	△	△	△	△
	洗浄後の肌のしっとり感	◎	×	×	△

[0074] [表9]

		実施例					
		42	43	44	45	46	47
(A) 成分	ラウリン酸カリウム	5	5	5	5	5	5
	ミリスチン酸カリウム	2	2	2	2	2	2
(B) 成分	高度分岐環状デキストリン	1	1	1	1	1	1
(C) 成分	ラウリルジメチルアミノキサイド*	2	2	2	2	2	2
(D) 成分	イソプロピルメチルフェノール	0.01	0.1	0.2	—	—	—
	塩化ベンザルコニウム	—	—	—	0.01	0.1	0.2
共通成分	モノエタノールアミン	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
	エデト酸	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
	水酸化カリウム(48質量%)及びクエン酸	適量	適量	適量	適量	適量	適量
	精製水	残量	残量	残量	残量	残量	残量
合計(質量%)		100	100	100	100	100	100
質量比(B/C)		0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
質量比(ラウリン酸カリウム/ミリスチン酸カリウム)		2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5
評価結果	消臭力	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	消臭力の持続性	◎～○	◎	◎	◎～○	◎	◎
	洗浄力	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	泡の弾力感	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	泡の持続性	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	洗浄後の肌のしっとり感	◎	◎	◎	◎	◎	◎

[0075] ー液体ハンドソープー

(実施例48)

以下に示す組成、及び含有量の皮膚洗浄剤組成物を実施例1～47及び比較例1～10と同様の方法により作製した。皮膚洗浄剤組成物について、実施例1～47及び比較例1～10と同様にして、「消臭力」、「消臭力の持続性」、「洗浄力」、「泡の弾力感」、「泡の持続性」、及び「洗浄後の肌のしっとり感」を評価した。結果を下記に示す。

含有量(質量%)

ラウリン酸カリウム((A)成分)	4質量%
ミリスチン酸カリウム((A)成分)	4質量%
高度分岐環状デキストリン((B)成分)	1質量%
ラウリルジメチルアミノキサイド((C)成分)	2質量%

ポリオキシエチレン（３）ラウリルエーテル硫酸ナトリウム	0.5質量%
ポリオキシエチレン（８）ステアリルエーテル	1質量%
アクリル酸アルキル共重合体エマルジョン	2.5質量%
ベントナイト	0.2質量%
ヒドロキシプロピルメチルセルロース	0.2質量%
プロピレングリコール	15質量%
スクワラン	2質量%
高重合ジメチルシリコーン	2質量%
エデト酸	0.2質量%
メリッサエキス	1質量%
ダービリアエキス	1質量%
スチレン重合体エマルジョン	2質量%
グリチルリチン酸ジカリウム	0.1質量%
イソプロピルメチルフェノール（（D）成分）	0.1質量%
香料	0.3質量%
ジブチルヒドロキシルエン	0.01質量%
色素	微量
モノエタノールアミン	0.5質量%
水酸化カリウム（48質量%）及びクエン酸（pH10.2に調整）	適量
精製水	残量
合計	100質量%

質量比（B／C）＝0.5

容器：ポンプディスペンサー容器（商品名：P1-1、株式会社キャニオン製）

消臭力：◎

消臭力の持続性：◎

洗浄力：◎

泡の弾力感：◎

泡の持続性：◎

洗浄後の肌のしっとり感：◎

[0076] ー液体ハンドソープー

(実施例 4 9)

以下に示す組成、及び含有量の皮膚洗浄剤組成物を実施例 1 ～ 4 7 及び比較例 1 ～ 1 0 と同様の方法により作製した。皮膚洗浄剤組成物について、実施例 1 ～ 4 7 及び比較例 1 ～ 1 0 と同様にして、「消臭力」、「消臭力の持続性」、「洗浄力」、「泡の弾力感」、「泡の持続性」、及び「洗浄後の肌のしっとり感」を評価した。結果を下記に示す。

	含有量 (質量%)
ラウリン酸カリウム ((A) 成分)	4 質量%
ミリスチン酸カリウム ((A) 成分)	3 質量%
パルミチン酸カリウム ((A) 成分)	0. 5 質量%
ヒドロキシプロピルーβ-シクロデキストリン ((B) 成分)	1 質量%
ラウリン酸アミドプロピルベタイン ((C) 成分)	2. 5 質量%
N-ラウロイル-L-グルタミン酸カリウム	1 質量%
ベントナイト	0. 1 質量%
セキスオレイン酸ソルビタン	1 質量%
シリコーンエマルジョン	2 質量%
アクリル酸アルキル共重合体エマルジョン	2 質量%
塩化ジメチルジアリルアンモニウム・アクリルアミド共重合体	3 質量%
カチオン化グアーガム	0. 5 質量%
エチレングリコールジステアレート	2 質量%
ヘキシレングリコール	2 質量%
ローズマリーエキス	1 質量%
安息香酸ナトリウム	1 質量%
ヒドロキシエタンジホスホン酸	0. 1 質量%
塩化ベンザルコニウム ((D) 成分)	0. 1 質量%

イソプロピルメチルフェノール（（D）成分）	0.2質量%
香料	0.4質量%
ジブチルヒドロキシルエン	0.01質量%
モノエタノールアミン	0.5質量%
水酸化カリウム（48質量%）及びクエン酸（pH10.2に調整）	適量
精製水	残量
合計	100質量%

質量比（B／C）＝0.4

容器：ポンプディスペンサー容器（商品名：P1-1、株式会社キャニオン製）

消臭力：◎

消臭力の持続性：◎

洗浄力：◎

泡の弾力感：◎

泡の持続性：◎

洗浄後の肌のしっとり感：◎

[0077] 一泡ハンドソープ

（実施例50）

以下に示す組成、及び含有量の皮膚洗浄剤組成物を実施例1～47及び比較例1～10と同様の方法により作製した。皮膚洗浄剤組成物について、実施例1～47、及び比較例1～10と同様にして、「消臭力」、「消臭力の持続性」、「洗浄力」、「泡の弾力感」、「泡の持続性」、及び「洗浄後の肌のしっとり感」を評価した。結果を下記に示す。

	含有量（質量%）
ラウリン酸カリウム（（A）成分）	3質量%
ミリスチン酸カリウム（（A）成分）	3質量%
高度分岐環状デキストリン（（B）成分）	1質量%
ラウリルジメチルアミノオキサイド（（C）成分）	5質量%

N-ラウロイル-N-メチル-β-アラニンカリウム	1 質量%
スチレン重合体エマルジョン	2 質量%
ポリオキシエチレン (1 1) ステアリルエーテル	1 質量%
プロピレングリコール	1 5 質量%
スクワラン	2 質量%
シリコーンエマルジョン	2 質量%
エデト酸	0. 2 質量%
ジブチルヒドロキシルエン	0. 1 質量%
カミツレエキス	1 質量%
グリチルリチン酸ジカリウム	0. 1 質量%
イソプロピルメチルフェノール ((D) 成分)	0. 1 質量%
色素	微量
香料	0. 4 質量%
モノエタノールアミン	0. 5 質量%
水酸化カリウム (4 8 質量%) 及びクエン酸 (p H 1 0. 2 に調整)	適量
精製水	残量
合計	1 0 0 質量%

質量比 (B / C) = 0. 2

容器：ポンプフォーマー容器 (2 0 0 メッシュ 2 枚を使用、株式会社吉野工業所製)

2 5 ℃ の粘度は、3 m P a ・ s である

消臭力：◎

消臭力の持続性：◎

洗浄力：◎

泡の弾力感：◎

泡の持続性：◎

洗浄後の肌のしっとり感：◎

[0078] - ボディソープ -

(実施例 5 1)

以下に示す組成、及び含有量の皮膚洗浄剤組成物を実施例 1～4 7 及び比較例 1～1 0 と同様の方法により作製した。皮膚洗浄剤組成物について、実施例 1～4 7、及び比較例 1～1 0 と同様にして、「消臭力」、「消臭力の持続性」、「洗浄力」、「泡の弾力感」、「泡の持続性」、及び「洗浄後の肌のしっとり感」を評価した。結果を下記に示す。

	含有量 (質量%)
ヤシ油脂肪酸カリウム ((A) 成分)	6 質量%
ヒドロキシプロピルーβ-シクロデキストリン ((B) 成分)	3 質量%
ラウリン酸アミドプロピルベタイン ((C) 成分)	3 質量%
ラウリルジメチルアミノオキサイド ((C) 成分)	1 質量%
ヤシ油脂肪酸タウリンナトリウム	1 質量%
ポリオキシエチレン (4 0) 硬化ヒマシ油	1 質量%
塩化ナトリウム	0. 2 質量%
プロピレングリコール	2 0 質量%
酢酸ビニル樹脂エマルジョン	0. 1 質量%
ローズマリーエキス	1 質量%
ホホバ油	0. 5 質量%
ポリオキシエチレン (2) ラウリン酸モノエタノールアミド	1 質量%
メチルパラベン	0. 3 質量%
安息香酸ナトリウム	0. 1 質量%
エデト酸	0. 2 質量%
ヒドロキシアタングジホスホン酸	0. 1 質量%
トリクロサン ((D) 成分)	0. 1 質量%
イソプロピルメチルフェノール ((D) 成分)	0. 1 質量%
香料	0. 3 質量%
モノエタノールアミン	0. 5 質量%
水酸化カリウム (4 8 質量%) 及びクエン酸 (p H 1 0. 2 に調整)	適量

精製水	残量
-----	----

合計	100質量%
----	--------

質量比 (B/C) = 0.75

容器：ミストディスペンサー容器（商品名：Z-35-ST (NT5)、株式会社三谷バルブ製）

消臭力：◎

消臭力の持続性：◎

洗浄力：◎

泡の弾力感：◎

泡の持続性：◎

洗浄後の肌のしっとり感：◎

[0079] ー洗顔料ー

（実施例52）

以下に示す組成、及び含有量の皮膚洗浄剤組成物を実施例1～47及び比較例1～10と同様の方法により作製した。皮膚洗浄剤組成物について、実施例1～47、及び比較例1～10と同様にして、「消臭力」、「消臭力の持続性」、「洗浄力」、「泡の弾力感」、「泡の持続性」、及び「洗浄後の肌のしっとり感」を評価した。結果を下記に示す。

	含有量（質量%）
ラウリン酸カリウム（（A）成分）	5質量%
ミリスチン酸カリウム（（A）成分）	3質量%
高度分岐環状デキストリン（（B）成分）	2質量%
ラウリン酸アミドプロピルベタイン（（C）成分）	1質量%
ラウリルジメチルアミノオサイド（（C）成分）	1質量%
ポリオキシエチレン（11）ステアシルエーテル	1質量%
ポリオキシエチレン（2）ラウリン酸モノエタノールアミド	1質量%
ポリオキシエチレン（2）ヤシ油脂肪酸モノエタノールアミド	1質量%
プロピレングリコール	15質量%

アクリル酸アルキル共重合体エマルジョン	4 質量%
スチレン重合体エマルジョン	0. 7 質量%
塩化ジメチルジアリルアンモニウム・アクリルアミド共重合体	1 質量%
カチオン化セルロース	0. 5 質量%
カミツレエキス	0. 0 1 質量%
安息香酸ナトリウム	0. 1 質量%
エデト酸	0. 2 質量%
ヒドロキシエタンジホスホン酸	0. 1 質量%
塩化ベンザルコニウム（（D）成分）	0. 1 質量%
イソプロピルメチルフェノール（（D）成分）	0. 1 質量%
香料	0. 5 質量%
モノエタノールアミン	0. 5 質量%
水酸化カリウム（4 8 質量%）及びクエン酸（p H 1 0. 2 に調整）	適量
精製水	残量

合計 1 0 0 質量%

質量比（B／C）＝1

容器：ポンプディスペンサー容器（商品名：P 3. 5 B S、株式会社キャニオン社製）

消臭力：◎

消臭力の持続性：◎

洗浄力：◎

泡の弾力感：◎

泡の持続性：◎

洗浄後の肌のしっとり感：◎

[0080] なお、前記実施例、及び前記比較例で使用した各種成分の詳細について、下記表 1 0 及び表 1 1 に示す。

[表10]

	成分	商品名	製造会社名
(A) 成分	ラウリン酸 ^{*1}	NAA-122	日油(株)
	ミリスチン酸 ^{*1}	NAA-142	日油(株)
	パルミチン酸 ^{*1}	NAA-171	日油(株)
	ステアリン酸 ^{*1}	NAA-180	日油(株)
	ヤシ油脂肪酸 ^{*1}	椰子脂肪酸	日油(株)
(B) 成分	高度分岐環状デキストリン	クラスターデキストリン	グリコ栄養食品(株)
	ヒドロキシプロピル-β-シクロデキストリン	セルデックスHP-β-CD	日本食品化工(株)
(B') 成分	α-シクロデキストリン	セルデックスA-100	日本食品化工(株)
	β-シクロデキストリン	セルデックスB-100	日本食品化工(株)
	γ-シクロデキストリン	γ-シクロデキストリン	純正化学(株)
(C) 成分	ラウリルジメチルアミノキサイト ^o	AX剤-S	ライオンアクゾ(株)
	ラウリルジメチルアミノ酢酸ヘタイン	RDZ-33 アモーゲンS-H	第一工業製薬(株)
	ラウリン酸アミドプロピルヘタイン	エナジコールL-30B	ライオン(株)
	ラウリアルミノプロピオン酸ナトリウム	レボンAPL	三洋化成工業(株)
(D) 成分	イソプロピルメチルフェノール	イソプロピルメチルフェノール	大阪化成(株)
	塩化ベンザルコウム	ニッサンカチオンF2-50E	日油(株)
	トリクロサン	IRGACARE MP	チバ・スペシャリティ・ケミカル(株)
共通 成分	モノエタノールアミン	MEA	(株)日本触媒
	エチ酸	ディゾルビンZ	ライオン(株)
	水酸化カリウム(48質量%)	液体苛性カリ	旭硝子(株)
	クエン酸	精製クエン酸(結晶)	扶桑化学工業(株)

*1: (A) 成分のラウリン酸カリウムは、ラウリン酸(NAA-122、日油株式会社製)を、水酸化カリウム(旭硝子株式会社製、液体苛性カリ)で中和させて調製した。

(A) 成分のミリスチン酸カリウムは、ミリスチン酸(NAA-142、日油株式会社製)を、水酸化カリウム(旭硝子株式会社製、液体苛性カリ)で中和させて調製した。

(A) 成分のパルミチン酸カリウムは、パルミチン酸(NAA-160、日油株式会社製)を、水酸化カリウム(旭硝子株式会社製、液体苛性カリ)で中和させて調製した。

(A) 成分のステアリン酸カリウムは、パルミチン酸(NAA-180、日油株式会社製)を、水酸化カリウム(旭硝子株式会社製、液体苛性カリ)

) で中和させて調製した。

(A) 成分のヤシ油脂肪酸カリウムは、ヤシ油脂肪酸（椰子脂肪酸、日油株式会社製、ラウリン酸 55 質量%、ミリスチン酸 17 質量%、及びその他の脂肪酸 28 質量%）を、水酸化カリウム（旭硝子株式会社製、液体苛性カリ）で中和させて調製した。

[0081] [表11]

	成分	商品名	製造会社名
その他の成分	ヤシ油脂肪酸ナトリウム	HOSTAPON KTW NEW	クラリアントジャパン(株)
	N-ラウロイル-L-グルタミン酸カリウム	アミソフトLK-12	味の素(株)
	N-ラウロイル-N-メチル-β-アラニンカリウム	アラノン ALE	川研ファインケミカル(株)
	ポリオキシエチレン(40)硬化ヒマシ油 ^{*2}	EMALEX HC-40	日本エマルジョン(株)
	ポリオキシエチレン(2)ラウリン酸モノエタノールアミド ^{*2}	アミゼット2L-Y	川研ファインケミカル(株)
	ポリオキシエチレン(2)ヤシ油脂肪酸モノエタノールアミド ^{*2}	アミゼット 2C	川研ファインケミカル(株)
	ポリオキシエチレン(3)ラウリルエーテル硫酸ナトリウム ^{*2}	サンノールLMT-1430	ライオン(株)
	ポリオキシエチレン(8)ステアリルエーテル ^{*2}	EMALEX608	日本エマルジョン(株)
	ポリオキシエチレン(11)ステアリルエーテル ^{*2}	EMALEX611	日本エマルジョン(株)
	スクワラン	NIKKOL スクワラン	日光ケミカルズ(株)
	酢酸ビニル樹脂エマルジョン	サイビノール X-201-840E	サイデン化学(株)
	高重合ジメチルシリコン	BY22-055	東レ・ダウコーニング(株)
	スチレン重合体エマルジョン	サイビノールPE-3	サイデン化学(株)
	シリコンエマルジョン	レオフロ-DMS-60	ライオン・スペシャリティ・ケミカルズ(株)
	アクリル酸アルキル共重合体エマルジョン	レオアールMS-200	ライオン(株)
	塩化ジメチルシリアルアンモニウム・アクリルアミド共重合体	カヤクリルレジンM-50	日本化薬(株)
	安息香酸ナトリウム	安息香酸ナトリウム	(株)伏見製薬所
	ヒドロキシエタンジホスホン酸	フェリオックス115	ライオン(株)
	エチレンジグリコールステアレート	genapol PMS	クラリアントジャパン(株)
	プロピレンジグリコール	プロピレンジグリコール	旭硝子(株)
	ヘキシレンジグリコール	M0384	東京化成工業(株)
	ペンタナイト	クニピアG	クニミネ工業(株)
	カチオン化グアガム	ジャガーC14S	三粧化研(株)
	カチオン化セルローズ	レオガードGP	ライオン(株)
	ヒドロキシプロピルメチルセルローズ	メトロース60SH-4000	信越化学工業(株)
	メチルパラベン	オキシベンM	和光純薬工業(株)
	グリチルリチン酸ジカリウム	外原規グリチルリチン酸ジカリウム	丸善製薬(株)
	ジブチルヒドロキシトルエン	SUMILZER BHT-R	住友化学(株)
	セキソオレイン酸ソルビタン	EMALEX SPO-150	日本エマルジョン(株)
	ホホバ油	精製ホホバ油	香栄興業(株)
	香料	香料	高砂香料工業(株)
	色素	C. I. Solvent Blue63	辰巳化成(株)
		黄色4号	ダイワ化成(株)
	カミツレエキス	カミツレキッド	一丸ファルコス(株)
	ローズマリーエキス	ローズマリー水	丸善製薬(株)
	メリッサエキス	メリッサ抽出液BG-50	香栄興業(株)
	ダーセリアエキス	海藻エキス末	アルプス薬品工業(株)
	塩化ナトリウム	日本薬局方塩化ナトリウム	イヌイ(株)

＊２：（ ）内の数字は、エチレンオキシドの平均付加モル数を表す。

産業上の利用可能性

[0082] 本発明の皮膚洗浄剤組成物は、洗浄力、泡の弾力感、及び泡の持続性が良好であり、消臭力、消臭力の持続性、及び洗浄後の肌のしっとり感に優れるため、例えば、ボディソープ、ハンドソープ、洗顔料、キッチン用ハンドソープなどに好適に適用することができる。

請求の範囲

- [請求項1] (A) 脂肪酸塩と、
- (B) 高度分岐環状デキストリン及びヒドロキシアシル化シクロデキストリンから選択される少なくとも1種0.2質量%～10質量%と、
- (C) 両性界面活性剤及びアルキルアミノキサイドから選択される少なくとも1種0.3質量%～10質量%と、を含有し、
- 前記(B) 高度分岐環状デキストリン及びヒドロキシアシル化シクロデキストリンから選択される少なくとも1種の含有量(質量%)と、前記(C) 両性界面活性剤及びアルキルアミノキサイドから選択される少なくとも1種の含有量(質量%)との質量比(B/C)が0.1～30であることを特徴とする皮膚洗浄剤組成物。
- [請求項2] ヒドロキシアシル化シクロデキストリンがヒドロキシプロピルシクロデキストリンである請求項1に記載の皮膚洗浄剤組成物。
- [請求項3] (B) 高度分岐環状デキストリン及びヒドロキシアシル化シクロデキストリンから選択される少なくとも1種の含有量が0.5質量%～10質量%であり、
- (C) 両性界面活性剤及びアルキルアミノキサイドから選択される少なくとも1種の含有量が0.5質量%～10質量%であり、
- 前記(B) 成分の含有量(質量%)と、前記(C) 成分の含有量(質量%)との質量比(B/C)が0.2～30である請求項1から2のいずれかに記載の皮膚洗浄剤組成物。
- [請求項4] (C) 成分がアルキルアミノキサイドである請求項1から3のいずれかに記載の皮膚洗浄剤組成物。
- [請求項5] 更に、(D) 殺菌剤を含有する請求項1から4のいずれかに記載の皮膚洗浄剤組成物。

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2015/083493

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER

A61K8/36(2006.01)i, A61K8/41(2006.01)i, A61K8/42(2006.01)i, A61K8/73(2006.01)i, A61Q19/10(2006.01)i

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)

A61K8/00-A61K8/99, A61Q1/00-A61Q90/00

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Jitsuyo Shinan Koho	1922-1996	Jitsuyo Shinan Toroku Koho	1996-2016
Kokai Jitsuyo Shinan Koho	1971-2016	Toroku Jitsuyo Shinan Koho	1994-2016

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

WPI

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
Y	JP 2006-182698 A (Lion Corp.), 13 July 2006 (13.07.2006), claim 1; paragraphs [0001] to [0009], [0014] to [0018]; examples (Family: none)	1-5
Y	JP 8-269492 A (Shiseido Co., Ltd.), 15 October 1996 (15.10.1996), claims 1, 2; paragraphs [0001] to [0018], [0029], [0034], [0035]; examples (Family: none)	1-5
Y	JP 2003-095906 A (Lion Corp.), 03 April 2003 (03.04.2003), claim 1; paragraphs [0005], [0010], [0018]; examples (Family: none)	1-5

☒ Further documents are listed in the continuation of Box C.

☐ See patent family annex.

* Special categories of cited documents:

"A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance
 "E" earlier application or patent but published on or after the international filing date
 "L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)
 "O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means
 "P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed

"T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention
 "X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone
 "Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art
 "&" document member of the same patent family

Date of the actual completion of the international search
02 February 2016 (02.02.16)

Date of mailing of the international search report
16 February 2016 (16.02.16)

Name and mailing address of the ISA/
Japan Patent Office
3-4-3, Kasumigaseki, Chiyoda-ku,
Tokyo 100-8915, Japan

Authorized officer

Telephone No.

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2015/083493

C (Continuation). DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
A	JP 2003-012485 A (Kumanoyushi Co., Ltd.), 15 January 2003 (15.01.2003), claim 1; paragraphs [0006], [0007]; examples (Family: none)	1-5
A	JP 2003-286500 A (Clariant GmbH), 10 October 2003 (10.10.2003), claims 1 to 3 & US 2003/0162952 A1 claims 1 to 3 & EP 1338644 A1	1-5
A	JP 8-268876 A (Shiseido Co., Ltd.), 15 October 1996 (15.10.1996), claims 1 to 3; paragraph [0022]; examples (Family: none)	1-5
A	JP 3-284611 A (Shiseido Co., Ltd.), 16 December 1991 (16.12.1991), claims; examples (Family: none)	1-5

A. 発明の属する分野の分類（国際特許分類（IPC））

Int.Cl. A61K8/36(2006.01)i, A61K8/41(2006.01)i, A61K8/42(2006.01)i, A61K8/73(2006.01)i, A61Q19/10(2006.01)i

B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料（国際特許分類（IPC））

Int.Cl. A61K8/00- A61K8/99, A61Q1/00-A61Q90/00

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報	1922-1996年
日本国公開実用新案公報	1971-2016年
日本国実用新案登録公報	1996-2016年
日本国登録実用新案公報	1994-2016年

国際調査で使用した電子データベース（データベースの名称、調査に使用した用語）

WPI

C. 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求項の番号
Y	JP 2006-182698 A（ライオン株式会社）2006.07.13, 請求項1、 [0001]-[0009]、[0014]-[0018]、実施例等（ファミリーなし）	1-5
Y	JP 8-269492 A（株式会社資生堂）1996.10.15, 請求項1、2、 [0001]-[0018]、[0029]、[0034]、[0035]、実施例等（ファミリーなし）	1-5
Y	JP 2003-095906 A（ライオン株式会社）2003.04.03, 請求項1、 [0005]、[0010]、[0018]、実施例等（ファミリーなし）	1-5

C欄の続きにも文献が列挙されている。

パテントファミリーに関する別紙を参照。

* 引用文献のカテゴリー	の日の後に公表された文献
「A」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの	「T」国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの
「E」国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの	「X」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの
「L」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献（理由を付す）	「Y」特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの
「O」口頭による開示、使用、展示等に言及する文献	「&」同一パテントファミリー文献
「P」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願	

国際調査を完了した日

02.02.2016

国際調査報告の発送日

16.02.2016

国際調査機関の名称及びあて先

日本国特許庁（ISA/J P）

郵便番号100-8915

東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官（権限のある職員）

井上 能宏

4D

3122

電話番号 03-3581-1101 内線 3421

C (続き) . 関連すると認められる文献		
引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求項の番号
A	JP 2003-012485 A (熊野油脂株式会社) 2003.01.15, 請求項 1、 [0006]、[0007]、実施例等 (ファミリーなし)	1 - 5
A	JP 2003-286500 A (クラリアント・ゲゼルシャフト・ミト・ベスユ レンクテル・ハフツング) 2003.10.10, 請求項 1 - 3 等 & US 2003/0162952 A1 請求項 1 - 3 & EP 1338644 A1	1 - 5
A	JP 8-268876 A (株式会社資生堂) 1996.10.15, 請求項 1 - 3、 [0022]、実施例等 (ファミリーなし)	1 - 5
A	JP 3-284611 A (株式会社資生堂) 1991.12.16, 特許請求の範囲、実 施例等 (ファミリーなし)	1 - 5